

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言 「献身」

日本同盟基督教団理事長・世田谷中央教会主任牧師 聖書宣教会評議員

安藤 能成

西暦紀元のはじまりの頃、ユダヤに聖書に登場する3人の重要人物が誕生しました。ひとりはもちろん主イエス・キリスト。もうひとりとはバプテスマのヨハネ。そしてもうひとはガリラヤの国主ヘロデです。

主イエスはダビデの家系のヨセフの子として生まれ、ヨハネは祭司ザカリヤの子として生まれ、ヘロデは大王ヘロデの子として生まれました。それから約30年が過ぎたとき3人の歴史が絡み合います。

ヨハネはキリストの先駆者として悔い改めを説きます。そして主イエスを「世の罪を取り除く神の子羊」として人々に示しました。主イエスは30年間の沈黙を破ってヘロデのガリラヤで神の国の宣教を開始されました。そこでひとつの重大な事件が起きました。ヘロデがヨハネの首をはねたのです。

ここでヨハネに注目してみましょう。彼は自分の立場をわきまえて、神が与えてくださった預言者としての使命に完全に献身していました。人々が「もしかするとこの方がキリストではあるまいか」と考えたとき、それをあっさり否定して真のキリストとして主イエスを示しました。自らの立場をわきまえない者だったなら、人々の声に乗せられてその気になったかも知れません。それはつまずきのはじまりです。またヨハネは誰をも恐れることなく預言者としてまっすぐに語りました。民衆に向かっては「まむしの末たち」と悔い改めを迫り、ヘロデには「あなたが兄弟の妻を自分のものとしていることは不法です」と言い張りました。それに業を煮やしたヘロデヤが機会を狙い、ヘロデの誕生日の祝宴のときに娘を使って思いを遂げたのです。人々にへつらうことなく、いのちの危険をも顧みることなく、語るべきことを語る。これが「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい」と求められている献身者の模範です。ヨハネは祭司の家に長男として生まれたのですから祭司職にあれば安全

だったかも知れません。

しかし彼は神の召しに献身しました。これからの時代は教会に逆風が吹くようになることが予想されます。諸外国のジャーナリストは日本が右傾化してきていると見ています。現憲法の無効を主張する政治リーダーたちが大っぴらに発言するようになってきました。キリストに対するこの世の挑戦の一場面と見ることもできます。私たちは献身者としてどうあるべきでしょうか。

ヘロデを見てみましょう。彼は王の家に生まれて世襲の国主となりました。彼が献身すべき相手は国と国民です。国の利益と国民の福祉のために政治を行い、国民の模範となるべきでした。しかし彼はユダヤ人の王と称しながら律法の要求も倫理も無視してヘロデヤと結び、祝宴の時は重鎮の手前を気にして良心の声にも聞かずにヨハネの首をはねました。彼は神よりも人を恐れたと言えます。そもそも酒に酔って娘の舞いに喜んで判断を誤り、見栄を張って常軌を逸した発言をして取り返しのつかない結果を招いたのです。これは上に立つ者として、また献身者としてあるべき姿ではありません。

人の子としての主イエス・キリストこそ真の献身者です。父のみこころに従って「神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり」人々に仕える者となりました。ヨハネは自らの分を超えないで使命に徹したのですが、主イエスのご自分の本来の立場である神であることを捨ててくださいました。十字架で私たちの罪のために贖いの死を遂げるために。

主イエスのご降誕を祝う季節に、聖書宣教会の兄弟姉妹と共に、もう一度献身とは何かを考えてみたいと思います。



「宣教の現場から」

～ブラジルから Bom dia ! (ボンヂーア)～

日本同盟基督教団 ブラジル宣教師
浜田 献

日本時間の 11 月 1 日朝 9 時頃、私たちは南米ブラジルの首都ブラジリアに降り立ちました。名古屋から成田、ドバイ、リオデジャネイロを経由してブラジリアまで、約 30 時間のフライトでしたが、4 人の子供たちも守られ、ブラジルでの生活がスタートしてちょうど一週間が過ぎました。

私は、ブラジリア・アライアンス・キリスト宣教教会（安井敏明エドワード牧師）の協力宣教師として、家族とともに、第一期目 4 年間で過ごします。

私は大学卒業後の 1996 年 5 月から 1 年 8 ヶ月、上記の教会で日本語教師として奉仕するなかで、ブラジル宣教への重荷が与えられました。帰国後、高齢福祉の仕事に 3 年間携わった後、聖書宣教会に入会し 4 年間で羽村の地で生活しました。2005 年 3 月に卒業後、青森シオンキリスト教会で 7 年間の牧会をし、2012 年 4 月より日本同盟基督教団派遣のブラジル宣教師として全国の諸教会を巡回後、11 月にブラジルに着任しました。

ブラジルは初夏、ちょうど雨期を迎え、11 月より毎晩のように激しい雷雨と稲光が続いています。渇ききった大地が恵みの雨を吸い込み、新緑の草木が芽生えています。見るもの、聞くものすべてが日本と異なり、鳥のさえずりはリズムカル、蟬の鳴き声さえもどこか力強く聞こえます。

11 月 4 日、ブラジルでささげる初めての主日礼拝。子供たちはポルトガル語の日曜学校に緊張した面持ちで参加しながらも、楽しんでいました。

全体の礼拝では、ポルトガル語と日本語の賛美、説教、聖餐式で主を礼拝し、豊かな安息をいただきました。私たちが協力する教会は、日系人の多い教会で、日系二世の安井牧師と一世の弘子夫人を中心に、日本語学校やフットサル、ダンス教室を通して伝道が進められています。この教会は、日系人伝道にとどまらず、ブラジル人の伝道師や副牧師を迎え、現在二つ目の開拓伝道に着手しています。

私たちは、まずこのブラジリアでポルトガル語の習得に努めながら、教会の必要に応じた働きに

携わっていきます。ブラジルは、日本人移民一世の高齢化が進み、日本語伝道の働きは急務です。同時に、若い世代のブラジル人（日系人を含む）へのポルトガル語の伝道も大いに必要とされています。



私たちは、ブラジルの生活や文化、習慣を知りながら、この国の人々が何を考え、何を頼りに生きているのか、また、どこに霊的な飢え渇きがあるのかを見極めながら、腰を据えてじっくりと祈りながら宣教していきたいと願っています。子供たちも「小さな宣教師」として、共にブラジルの大地に根ざし、私たち家族の存在と生き方を通して、主が証しされ、主の栄光のみわざを見ることができるようにと祈っています。2014 年にはサッカーのワールドカップ、2016 年にはオリンピックが開催されるブラジルは、経済成長の著しい国ですが、人々のたましいは逆に飢え渇いているようにも見えます。しかし、教会は地の塩、世の光として、大きな輝きと慰めをもって歩んでいることを実感できることは幸いです。この世の様々な悪がはびこるこの国にあっても、キリスト者が集う教会がしっかりとキリストの香りと塩気を保って、神の家族として、その広い懐の中に、多くの民を迎え入れ続けることができるようにと祈られます。ブラジル宣教を覚えてお祈りください。

また、機会を見つけて是非一度、南米ブラジルに足を踏み入れてみてください。聖書宣教会と諸教会の祝福を祈っています。

図書館から

図書館長 津村 俊夫

聖書翻訳の編集作業が本格的になる前にとり、11月に7000-8000人が集まる世界最大規模の「聖書学会」(SBL)に出席して研究発表をすることにしました。多くの新しい研究成果に触れたり、各国からの研究者に会えることは楽しみです。もう一つの楽しみは、会場に何十もの出版社のブースがあって、出版されたばかりの新しい本を直接手にとって見ることができることです。

書評がまだ出ていない新しい本の場合、出版社のカタログに基づいて本を注文すると、しばしば見当外れの間違いをすることがあります。しかし、著者の研究発表を直接聞いたり、別の学者の意見を聞いたりして、「自分で」判断してから本を購入できるので、このような機会は図書館の選書のためにもたいへん有益です。しかも、多くの本が30%~50%引きで購入できます。(D.カーソン教授は、毎年、この学会で一年分の本を購入すると言っていました。)

必要な本や論文の情報を得ることは、本を書く時、論文を書く時に限らず、説教の準備で調べた時などに不可欠です。しかし、世界中の殆どの学者や説教者は、情報量からすれば、理想的とは必ずしも言えない環境の中に置かれています。Academia.eduに登録している研究者たちの中には、立派な図書館が近くにないような国や地方で、日夜努力している人たちが多くいることを知って励まされます。

40年近く前、日本に帰国すると、もう研究はできないのではないかと。専門の先生はいない、必要な資料はない、図書館に本が揃っていない等々。悲観的になっていた時に、米国の恩師が、理想的な状況が整ったら勉強しようと思うな、そのような時はやっとな、というようなユダヤの諺で励ましてくださいました。あの時に比べると、現代は、多くの情報を「居ながらにして」得られるようになっています。しかし、ウィキペディアのような「便利な」情報源にだけ頼っていると、いつか大きな失敗を犯すことになるかも知れません。何事も、出来るだけ「自分で」確かめて判断することが大切であると思います。

《近況と祈りの課題》

- オープンデー(11月10日)に45名の来会者を歓迎できたことを感謝しています。日頃から学舎を覚えて祈り支えてくださる方々、神学校で学ぶことを祈り考えている方々など、それぞれが主の恵みを受け取ってくださったことと思います。それに先立つ11月3日には、教会のバス旅行で30名ほどが見学に立ち寄っていただきました。そのような訪問も歓迎です。
- 11月10日の午後にはオルガン協会主催の演奏会が開かれました。地域社会との接点としても用いられています。
- この時期、教職員にも研修生にも健康面での課題が重なっているようです。お祈りを感謝します。私たちが直接、間接に聞かせていただく諸教会の祈りの課題をともに覚えて祈っております。
- 研修生、特に卒業予定者の学びと訓練が祝されるようにお祈りください。
- 要覧が更新され、新年度に向けて祈り備えています。献身者が起こされるように、その中からこの学舎にも、主のみこころの通りに兄弟姉妹が導かれてくるようにお祈りください。

編集後記

主の降誕を喜び祝うこの季節を感謝します。教会が 平和の主を喜び伝え、主の平和を体現し、また実現す ために仕えることができますように、主よ力づけて ください。(A)